

と畜検査で発見される病気

牛編 No5 牛伝染性リンパ腫

☆どんな病気なの？

牛伝染性リンパ腫(EBL)は全身のリンパ節の腫大などを特徴とする血液の病気です。ウイルス感染を原因とする型(地方病型)と原因不明の型(散発型)があります。

☆症状

①地方病型

EBLウイルス感染牛の多くは無症状ですが、一部が発症して体表リンパ節の腫脹、全身の各臓器に白色結節の形成、消瘦(さくそう)、元気消失、食欲不振、眼球突出などを示して死の転帰をたどります。

②散発型

子牛型(6ヶ月未満)、胸腺型(6ヶ月～2歳未満)及び皮膚型(2～3歳)に分かれます。子牛型では全身のリンパ節、胸腺型では胸腺が腫れ、皮膚型では全身にイボ状病変が形成されます。

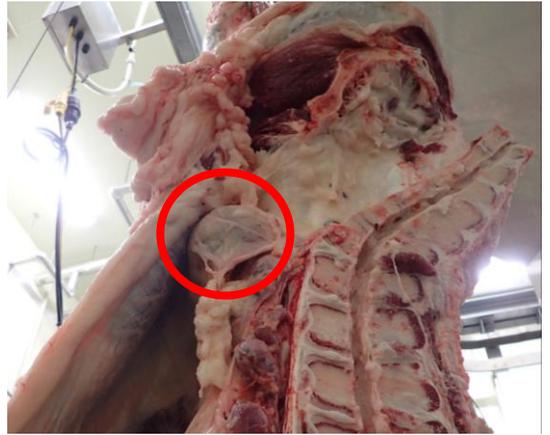
☆検査

肉眼検査でEBLを疑ったものは保留し、精密検査を行います。病理組織学的検査(組織切片で腫瘍性リンパ球の増殖が見られるか)の他に血液検査、抗体検査などの結果を総合して判定します。EBLと判定された場合、全部廃棄処分となります。

☆牛伝染性リンパ腫の病理組織切片

腫瘍組織では腫瘍リンパ球の増殖とリンパ節構造の崩壊が見られるほか、腫瘍細胞を貪食したマクロファージが認められ、Starry Sky像と呼ばれます。Starry Skyとは”星空”のことです。淡い胞体を持つマクロファージを星に見立てているのですね。

内腸骨リンパ節の腫大



子宮粘膜の肥厚



Starry Sky像
矢印が腫瘍細胞を貪食したマクロファージです

